

令和六年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 全日制の課程（追検査）

Ⅱ 国 語

注 意 事 項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は **問五** までであり、1 ページから14 ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 文字や数字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の ○ の中を塗りつぶしなさい。
- 6 解答用紙にマス目（例：

）がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 7 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号									
番									

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次のa～dの各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 博物館で動物の剥製を見る。 (1) こうせい 2 かんせい 3 いくせい 4 はくせい)
b 喫緊の課題に取り組む。 (1) けつきん 2 けいきん 3 きつきん 4 きんきん)
c 庭で盆栽を育てる。 (1) ふんさい 2 ほんさい 3 ふんたい 4 ほんたい)
d 僅かな違いに気づく。 (1) あきら 2 かす 3 ひそ 4 わず)

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 漢字のカクスウを確認する。
1 電子書籍は出版業界にカクメイを起こした。 2 野生動物が敵をイカクする。
3 裏でカクサクせず堂々と勝負する。 4 なだらかな山のリンカクが見える。
b 早起きのシユウカンをつける。
1 授業の内容をフクシユウする。 2 働いてホウシユウを得る。

- 3 リツシユウを過ぎて暑さが和らぐ。 4 これまでのやり方をトウシユウする。
c 自身のザユウの銘を発表する。
1 首をサユウに振る。 2 公園のユウグの前に集まる。
3 時間にヨユウがある。 4 一刻のユウヨも許されない事態だ。

- d 大通りに店をカマえる。
1 生徒会長のコウホに友人の名を挙げる。 2 飛行機のコウゾウを調べる。
3 功績をたたえてドウゾウを建てる。 4 工場に新しい機械をドウニユウする。

(ウ) 次の短歌を説明したものととして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

来嶋 靖生
きしま やすお

- 1 昼間は庭の中でぼつんと咲いている山茶花が、夜になると暗闇の中でひときわ輝いて見えることに對する驚きを、真っ白な山茶花を夜空に浮かぶ月に見立てて表現することで、効果的に描いている。
2 暗闇の中で月の光に照らされると、庭に植えられている山茶花だけでなく庭そのものが白く浮かび上がって見えるという発見を、暗い夜空と明るい庭を対比させることによって、鮮やかに描いている。
3 夜になり月の光が地上に降りそそぐことによって、庭のいたるところで咲き誇っている白い山茶花が、暗闇から浮き上がって咲いているように見えるということを、倒置法を用いて壮大に描いている。
4 頭上に広がる夜空から地上までの広大な空間の中で、庭に咲く一輪の白い山茶花が、月の光に照らされたことによって暗闇から浮かび上がって見えるさまを、体言止めを用いて印象的に描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

土木工事に従事する人々をとりまとめている「やいち弥市」は、江戸幕府の命を受けた「まつやまごう松山侯」から神奈川台場の築造を任されたが、自身の仕事に対して悩みを抱えていた。そこへ現場の様子を見に、幕府の役人の「かち勝」がやってきた。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(梶 よう子「我、鉄路を拓かん」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 薩州＝現在の鹿児島県に位置した薩摩^{さつま}の別称。

要塞＝戦略上の重要地点に設けられる、主に防衛を目的とした軍事施設。

落成＝建造物などの工事が完成すること。

ご公儀＝幕府。

ペリリ＝アメリカの軍人。ペリー（一七九四～一八五八）。

篝火＝夜、照明のために燃やす火。

おためごかし＝表面上、相手のためであるように見せかけること。

(ア) — 線1 「弥市には得心出来ないこともある。」とあるが、そのときの「弥市」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 日本は新しい知識を取り入れて先進諸国に追いつくべきだと「勝」は語るが、日本が欧米の国々と同様に異国を侵略するような国になってしまふことを納得出来ずにいる。

2 開港して異国から学ぶことで日本が発展すると「勝」は主張するが、開港したにもかかわらず異国を攻撃するための台場を造る必要が生じていることに疑問を感じている。

3 日本の未来のために亜米利加へ渡って学ぼうと「勝」は考えているが、幕府の役人であるのに台場の築造を最後まで見届けずに渡航してしまふことを腹立たしく思っている。

4 開港して異国との商いをする中で日本は豊かになると「勝」は信じているが、攘夷という考え方が日本に根強く残る中で異国が商いに応じてくれるのか不安に思っている。

(イ) — 線2 「弥市はむっとして、さらに言い放つ。」とあるが、そのときの「弥市」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 幕府の動きが納得出来ないという思いを真剣に話したのに、「勝」が真摯な態度で応じてくれないと感じ、腹が立って不満を重ねて伝えようとしている。

2 一貫性に欠ける幕府の姿勢を批判したが、「勝」が話題を変えようとしていると思い、怒りのあまりこれまで納得出来ずにいたことをすべて言おうとしている。

3 異国に対する恐怖が拭えないことを説明したが、「勝」から軽くあしらわれたと感じたので、幕府が異国の情報を町人に伝えないことを批判しようとしている。

4 幕府の対応には問題があると主張したのに、「勝」から賛同を得ることが出来なかったので、幕府が町人の暴動を放置していることを非難しようとしている。

(ウ) — 線3 「それが、悲しいかな政なんだよ。」とあるが、そのときの「勝」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 見ばえを重視する政治の実態を鋭く見抜いた上で、「弥市」に対し、台場を見えるように置いたことで異国が日本に攻撃しづらくなったことをふまえて政治に対する見方を改めるよう求めている。

2 見せかけの政策をとることもある政治の本質を見透かしつつ、「弥市」に対し、政治は人々の不安を減らすことは出来ないが国内の状況がある程度変えることが出来ているということを伝えている。

3 政治のあり様を残念に思っており、「弥市」に対し、本来政治は見栄や安心よりも自国を守ることが優先するべきであるのに現在の政治は目的を見誤っているため肯定してはいけないと示唆している。

4 表向きの方針とは異なる目的をもつ政治の実情を理解した上で、「弥市」に対し、政治は問題の根本的な解決には至らなくても異人や自国民に影響を与えることは出来ているということを示している。

(エ) ―線4「勝が優しい眼を向ける。」とあるが、そのときの「勝」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 役に立たないものを作ったと感じて怒りが収まらない「弥市」の気持ちに寄り添い、品川台場の存在意義を示した上で、自身が神奈川台場を特別な台場だと考えていることを伝えようとしている。

2 仕事の意義を見いだせなくなり怒りを抑えきれない「弥市」の心情を理解し、品川台場の役割を認めつつ、神奈川台場の築造によって地域の経済が活性化したということを説明しようとしている。

3 台場を築く意味はなかったと思い怒りが込み上げている「弥市」に対して、品川台場と違って神奈川台場は、異国からの攻撃に対する備えとして十分なものになるとい根拠を示そうとしている。

4 幕府の考えを知った「弥市」の怒りを受け止めつつ、品川台場だけでなく神奈川台場も、日本が異国と良好な関係を築く上で重要な役割を果たすことになるという自らの予想を話そうとしている。

(オ) ―線5「おれはこうしたいからこうしている。」とあるが、ここでの「勝」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 幕府の役人という立場にある自分のことを仲間の一員として迎え入れ、現場で自分とともに作業しながら台場を造るために力を尽くしてくれた人々に、感謝の気持ちを示そうとするように読む。

2 台場の完成に向け一生懸命働く人々に対して、台場の作図をした幕府の役人と現場で作業する労働者という立場の違いにとらわれず、心から感謝していることを伝えたいという思いを込めて読む。

3 異国船を歓迎するための台場を造るという幕府の方針を、現場で働く人々が知ってくれていたことに深く感謝し、立場に関係なく気持ちを一つにして台場を完成させたいという決意を込めて読む。

4 命をかけて働く人々に感謝するとともに、幕府の役人という立場にあるせいで台場の築造に直接かわることが出来ないことを情けなく感じ、このままではいけないと自分に言い聞かせるように読む。

(カ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 台場の価値を見つけることは難しいと「勝」から言われた「弥市」が、日本の未来にかかわっていくような台場の役割を自ら見いだしていくさまを、江戸時代の言葉遣いを取り入れて描いている。

2 異国を敵視していた「弥市」が「勝」と意見を交わす中で、欧米諸国は日本を侵略しないということに気がつき異国船の来航を歓迎しようと考えを改めていくさまを、史実をもとに描いている。

3 自分の仕事や幕府の考えに対して疑念を抱いていた「弥市」が、自分たちは日本の未来のためになすべき仕事をしているということに気づいていくさまを、「勝」とのやりとりを通して描いている。

4 新たな台場は敵と戦うためだけでなく異国船を歓迎するために造っているのだと「勝」から聞かされた「弥市」が、自分の仕事に対する誇りを取り戻していくさまを、臨場感豊かに描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(永田^{ながた} 希^{のぞみ}「再読だけが創造的な読書術である」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 読み捨て〓ここでは、わからない部分を読み飛ばしながら、理解できなくても仕方ないと割り切って読むこと。

プラトン〓紀元前四世紀頃の古代ギリシアの哲学者。

「打ちひしがれたような優しさ」〓マルグリット・デュラスの小説『アガタ』に出てくる表現。

(ア) 本文中の A・B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | |
|-----|------|---|------|-----|-----|---|-----|
| 1 A | そして | B | ところで | 2 A | つまり | B | ただし |
| 3 A | なぜなら | B | たとえば | 4 A | しかし | B | さらに |

(イ) 本文中の〓〓線Ⅰの「で」と同じはたらきをする「で」を含む文を、次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | |
|---|-------------|---|-------------------|
| 1 | 兄は活発な性格である。 | 2 | 図書館は静かで落ち着いた場所だ。 |
| 3 | 駅で待ち合わせをする。 | 4 | 一生懸命泳いで対岸にたどり着いた。 |

(ウ) 本文中の〓〓線Ⅱの語の対義語として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 対立 | 2 | 進出 | 3 | 退去 | 4 | 回避 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|

(エ) 線1「書かれていることが変わっていないのに、読むたびに読みとられる内容が変化する」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 以前読んでから時間がたつにつれ、都合の良いことだけを読み取る機能が働かなくなっていくから。
- 2 初読時より経験が増えることで、再読時にはどの記述にも自分の経験を重ねて読むようになるから。
- 3 以前読んでから次に読むまでのあいだに経験を重ねることによって、読者自身が変化するから。
- 4 初読時は本の記述をすべて読むが、再読時は自分に都合の良い部分だけを読むようになるから。

(オ) 線2「その『奥』があります。」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 読解困難な記述に対し、どの程度読み解くか柔軟に判断するようになったのちには、読書をする際、再読時に何を検討するかを想定しながら読むことができるようになる領域があるということ。
- 2 意味を理解するのに困難を感じる記述について、じっくり考えようとせず、読み飛ばすことを繰り返すうちに、意味を噛み締めて解きほぐそうと試みるようになる領域に達するということ。

3 読解が難しい記述に出会っても、再読するときまで検討を保留できるようになったのちには、検討を重ねたことで、本の内容をすべて読み解くことができたという領域が存在するということ。

4 意味の理解が難しい記述に対して、どこにひっかかったのかメモをとるようにしていれば、再読時に読み解いたことも記録に残すという、さらなる理解につながる領域に達するということ。

(カ) 線3 「読者が『語るべき人々』であるタイミングになれば、そこに読まれる言葉は読者の心に刻み込まれるかもしれません。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 読者が、本の中の言葉について、表現されていることを想像する上で必要な経験や言葉に関する体系的な知識を得ることで、強い感動を伴った理解ができるかもしれないということ。
- 2 読者が、読書を進めるうちに、内容を想像するための経験が不足していると自覚して経験を補うために知識を得ることで、本の中の言葉が忘れられなくなるかもしれないということ。
- 3 読者が、本の中の言葉を読んだときに、言葉が示す意味だけでなく書き手が本を完成させるまでに積み重ねた知識や経験を感じ取ると、心を揺さぶられるかもしれないということ。
- 4 読者が、読書に取り組み途中で、断片的な知識しかもっていないにもかかわらず読み解くことができたといい経験をする、本の中の言葉が記憶に残り続けるかもしれないということ。

(キ) 線4 「もつと深い、あるいは別の感銘」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ある本から感銘を受けても満足せず、自分勝手な読み取りをしている可能性があることを自覚し、読み取った内容が適切か確かめるために別の本も読むことによつてやつと味わうことができる感銘。
- 2 本を読んで一度感銘を味わった後に同じ本を何度も読み返す中で、記述された内容の本質に自分の読み取りが近づき、以前はわからなかったことに気がつくようになることでさらに得られる感銘。
- 3 読解の難しさを乗り越えて感銘を味わった本を時間をおいて読み返し、読解困難な記述に対して以前のような読み取りをして感情を揺さぶられたのか思い出すと、再び心に呼び起こされる感銘。
- 4 初読時には理解の困難な記述を無視して読み進めたために感銘を得ることができなかった本を、読解困難な記述と向き合うことに慣れてから読み返すことによつて、ようやく受けることができる感銘。

(ク) 線5 「慣れの深み」を味わっている」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 読者が、本を何冊も読んでいく中で、他人からの評価を上げることが目指して簡単には読み取れない言葉と根気強く向き合うという経験を積んでいると自負しているということ。
- 2 読者が、読書に積極的に取り組みようになる中で、読み取りにくく表現された言葉について他人がどのように解釈したのか聞く経験を何度もしていると感じているということ。
- 3 読者が、読解が困難な本に挑戦するようになる中で、読み取りが難しい言葉を理解することで得た知識や蘊蓄を他人に披露する経験を何度もしていると自覚しているということ。
- 4 読者が、読みたい本を読みたいときに満足いくまで読むようになる中で、読み取ることが難しい言葉を自分なりに受け止める経験を重ねてきていると実感しているということ。

(ケ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 読者が読書に対する慣れを深めた状態とはどのようなものかを示した後に、初読時に理解したと思っていた内容が再読時にわからなくなることの理由について、小説の一節を用いつつ論じている。
- 2 本の内容に対する理解の深さが初読時と再読時で変わることを明らかにするとともに、自分が何度も読んで味わった文章の魅力は、他人にもわかってもらう必要があるということを論じている。
- 3 再読することで読者が読み取れる内容がどのように変化するかを説明した上で、段階を重ねることに本をより深く読むことができるようになっていくということを、具体例を交えつつ論じている。
- 4 読解困難な記述を読み飛ばすことの問題点を指摘しつつ、一度読むだけでは理解することが難しい本から再読を通して感銘を受ける方法について、哲学者が残した表現を引用しながら論じている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

古代より祈り伝へて、江州多賀の社は、寿命神と諸人あがめたてまつりしに、諸願叶はざるといふことなし。毎日神前にそなへし神酒・御供、共にその器物ばかりになりぬ。あまたの宮人立ち会ひ、これを奇瑞と、神に威をまして沙汰せり。年経りたる禰宜、つらつらこのことを思ふに、「正法に何か不思議な現象などはない。各々御番の油断。」と申しに、それより気を付け神垣を守りしに、夕暮れの寂しき松の陰より、老人夫婦詣で来て、かの土器・錫などを手毎に携へて、南の方の階のもとにして、心よく酌み交はして立ち帰るを、大勢立ちかかりこれを捕らふるに、この二人さらに動ぜず。「いかなる者にてかく神前を汚しぬる。その罪深し。奉行の役人に渡して末代の掟に。」と言ふ。

老人笑つて、「かたじけなくも当社は、命を守らせたまふ神ならずや。この兩人は家貧しく世を渡るべき船もなく、老いの波立ち恥を捨つる身に、何の病もなく命の終はる悲しさに、しばしの程も惜しまれ、昨日も暮らし今日もまた御供に命をつなく。」と語れば、知ある宮奴これを聞き分け、「昔、唐土にもかかる例あり。天子不死の薬酒を、仙人の伝へに任せ、自らこれを作らせられ、またもなき名酒なれば御重宝の第一、瑠璃をのべたる壺中に詰めさせられ、宝蔵のいぬるに深く埋み、『この酒隠して飲める輩は、即時に命を断つべき。』との御添へ札、宮中これに恐れをなしけるに、東方朔勅封を切りて、心のままに酌みしを、これを預かる官人見とがめて、たちまちに縛められ、綸言出でて帰らぬ我が宿の別れ、既にその場になりしとき、東方朔がいはく、『我まつたく一命惜しきにあらず。この酒の科にこの身を害したまはば、不死の名酒の徳絶えて、命の今終はることは。』と言へり。この言葉を考へさせたまひ、その難を許したまふとなり。今またこの兩人が命を取らば、寿命を守らせたまふ大明神の威力薄し。」子細なく老翁・老女を帰しける。

(注) 江州多賀の社 現在の滋賀県にある多賀神社。

御供 ここでは、神前に供える食べ物。

宮人 神に仕える人。

奇瑞 不思議な現象。

禰宜 神官。

宮奴 神官。

瑠璃 青色の寶石。

〔新可笑記〕から。

いぬる 北西。宝物を納める方角。

東方朔 紀元前二世紀頃の中国の文人。

勅封 天子の命令による封印。

子細 支障。

(ア) 線1 「それより気を付け神垣を守りしに」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 神前に供えた物がなくなるのは神の力によるものだと「宮人」たちは考えていたが、不思議な現象が起きているわけではなく見張りが不十分であるだけだと、「禰宜」から指摘を受けたから。
- 2 供え物の器が空になるのは何者かによるいたずらであると「宮人」たちは判断していたが、見張りの甘さをとがめるために神が不思議な現象を起こしているのだと、「禰宜」に言われたから。

3 神前の物が器だけになるのは不思議な現象ではなく誰かが食べているからだとして「宮人」たちは見抜いていたが、神を恐れる「禰宜」から、見張りを徹底しないと天罰が下ると注意されたから。

4 酒や食べ物が消えるのは神が起こした不思議な現象なのだと「宮人」たちは思っていたが、供え物が食べられる様子を目撃した「禰宜」から、見張りを怠けたことが原因だと叱られたから。

(イ) 線2 「この二人さらに動ぜず。」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 大勢の人が供え物を取り囲んでいるので、これ以上神前の物を食べることはできないと「老人夫婦」はあきらめており、捕まえられても抵抗する素振りを全く見せなかったということ。

2 供え物を食べたという証拠はどこにもないので、自分たちが罰せられることは絶対ないと「老人夫婦」は判断しており、捕まっても少しも騒ぎ立てる素振りを見せなかったということ。

3 多賀神社の供え物を食べることができて満足したため、どのような処罰でも受けるつもりだと「老人夫婦」は覚悟を決めており、捕まっても少しもあせる様子がなかったということ。

4 多賀神社は命を守る神がまつられているため、生き延びるために供え物を食べてもかまわないと「老人夫婦」は思っており、捕まえられても全くあわてる様子がなかったということ。

(ウ) 線3 「たちまちに縛められ」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「東方朔」が「天子」に頼まれて不死の薬酒を作ったのに、封印するのを忘れてしまったから。

2 「宮人」が「東方朔」の許可を得ずに不死の薬酒の封印を開いた上、遠慮なく飲んでいたので。

3 「天子」が誰かに飲まれないように封印させた不死の薬酒を、「東方朔」が思う存分飲んだから。

4 「宮人」が事情をわかっていない「東方朔」をそそのかして、不死の薬酒の封印を解かせたから。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 不死の薬酒の徳に守られた「東方朔」が捕縛された後に罰を受けても生き長らえたように、「老人夫婦」の命は神の恩恵によって守られた。

2 不死の薬酒の徳を守るために「東方朔」が罰せられなかったように、神社にまつられた神の威信を保つために「老人夫婦」は許された。

3 「東方朔」の行動によって不死の薬酒の徳が消えてしまったように、「老人夫婦」のふるまいによって神の恩恵が受けられなくなった。

4 不死の薬酒の徳をなくそうとした「東方朔」が許しを得られなかったように、神の威信を傷つけようとした「老人夫婦」は罰を受けた。

問五 中学生のAさんは、「デジタル化された社会」について考えるために、二つの文章を読んでいる。次の【文章1】、【文章2】は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

【文章1】

(著作権上の都合により省略)

(鳥海 不二夫・山本 龍彦)「デジタル空間とどう向き合うか」から。一部表記を改めたところがある。

(注) ビッグバンは宇宙の初めに起こったとされる大爆発。

黎明期は新しい物事が始まろうとする時期。

ボットは事前に決められた処理を自動で行うプログラムのこと。

【文章2】

(著作権上の都合により省略)

(細谷 功)「見えないものを見る『抽象の目』」から。一部表記を改めたところがある。

- (ア) Aさんは【文章1】と【文章2】を読んで、デジタル化された社会に生じた変化を次のようにまとめた。【Aさんのメモ】中のⅠ・Ⅱに入れる語句の組み合わせとして最も適するものを、あとの1〜4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

【Aさんのメモ】

情報のやり	情報の送り手	情報伝達の性質
玉石混交の情報があり うになった。	マスメディア、「プロ」の記者、一部の知識人といった、取材に裏付けられた情報を発信する送り手たちだけでなく、Ⅰが加わった。	【文章1】 一方向・低速・少量ではなく、双方向・リアルタイム・無制限に交錯するようになった。
		【文章2】 全体像を捉えるというものの見方が「退化」しつつある。 〈例1〉カーナビや地図アプリを使うようになり、Ⅱ。 〈例2〉駅でデジタルの掲示板を見るようになり、列車の一日の運行状況を知る機会がなくなった。 〈例3〉スマホニュースをチェックするようになり、紙を広げて活字の全体像を追うことがなくなった。

- 1 Ⅰ 情報をもつ一般ユーザー Ⅱ 目的地を入力せずに用が済むようになった
- 2 Ⅰ ユーザーのふりをしたポスト Ⅱ 次はどこで曲がるのかがわかりづらくなった
- 3 Ⅰ 様々な立場の一般ユーザー Ⅱ 次にとるべき行動しか確認しなくなった
- 4 Ⅰ 実名で投稿する新聞記者 Ⅱ 目的地までの行程を把握しなくなった
- (イ) Aさんは【文章1】と【文章2】を読んで考えたことを次のようにまとめた。【Aさんのまとめ】中のⅠ～Ⅳに適することばを、あとの①～④の条件を満たして書きなさい。

【Aさんのまとめ】

【文章1】を読んで、デジタル化された社会では偽情報に出会う可能性が高まっていると思った。偽情報に惑わされないためにはどうするべきだろうか。

【文章1】には、社会のデジタル化が進んだことで、偽情報と取材に裏付けられた情報が混在する状態になったと述べられている。その背景には、情報の送り手の変化があるということがわかった。さらに、【文章2】を読むと、デジタル技術の普及に伴ってものの見方が「退化」しつつあることがわかる。デジタル化された細切れの情報しか見なくなり物事の全体像を捉えることができなくなると、出会った情報が偽情報かどうか判断しづらくなるだろう。

以上のことを踏まえて考えると、デジタル化された社会で偽情報に惑わされないためには、Ⅰ～Ⅳの条件を満たして書きなさい。今回気づいたことを意識して、デジタル技術を効果的に活用したい。

- ① 書き出しのデジタル化された社会で偽情報に惑わされないためには、という語句に続けて書き、文末のⅠ～Ⅳの条件を満たすことばを、あとの①～④の条件を満たして書きなさい。
- ② 書き出しと文末の語句の間の文字数が三十字以上四十字以内となるように書くこと。
- ③ 【文章1】と【文章2】の内容に触れていること。
- ④ 「送り手」「視野」という二つの語句を、どちらもそのまま用いること。

(問題は、これで終わりです。)

